

<声のもののさしの活用>

授業では隣の児童と2人で話し合う場面、3～4人のグループで話し合う場面、学級全員に聞こえるように発表する場面など、いろいろな声の大きさと話す場面があります。「声の大きさ」は目に見えず、場面に適した声の大きさというの、指導しにくいものです。

低学年の教室には「声のもののさし」が掲示してあります。



目に見えない「声の大きさ」を視覚的に捉えられるようにした掲示です。

子どもは自分が出している声のどのくらいの大きさなのかわかりません。(グループで話し合っているときなどは、無意識に大きい声になってしまうこともあります。)
「今出している声の大きさは3だね。グループで話すときは2だからもう少し小さい声で話そう。」
「今の声は1でちょうどいいね。」
など、子どもに自分の声の大きさを意識させるとともに、適切な声の大きさを示してあげることが大切です。

<声の大きさの調節が難しい児童への支援>

子どもたちの中には、特に声の大きさの調節がしにくい子(相手との距離をつかみにくい子)がいます。



大声で話しかけてしまうことで相手を驚かせてしまい
友だちとの関係がうまくいかない。
つぶやきも大きな声になってしまい、授業の妨げに
なってしまうことがある。



このような子にも声のもののさしを使って指導することで、声の大きさを数字に置き換えてイメージし、声の大きさに意識が向くようになります。(全ての子どもに当てはまるとは限りませんが…)

◆◆◆参考◆◆◆

光で声の大きさがわかる「ボイスルーラー」というものも市販されています。(1つ1万円くらいするのですが…)

このボイスルーラーや、騒音計などで声の大きさを数値化させて子どもに意識させる…という指導方法もあります。

